

自 己 評 価 書

(平成23年度)

平成24年3月

鳴門教育大学附属中学校

目

次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	1
	1. 楽しい学校	2
	2. 美しい学校	8
	3. 活力ある学校	14
III	自己評価根拠資料一覧	19

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成 23 年 5 月 1 日)
生徒数 470 人 教員数 23 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ②地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

○知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成23年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の3本柱5項目から教育目標の具現化を図る。

- ①楽しい学校
- ②美しい学校
- ③活力ある学校

(4) 評価項目

- ①楽しい学校
(確かな学力の向上)
 - 「学ぶことのよろこびのある」学校に
・LFT(ライブ附中タイム)の取組の状況
講師陣の開発と充実
 - 一人一人のよさを認め、自己実現を図る
- ②美しい学校
(命を大切に)
 - 安全・安心な学校環境づくり
・防災マニュアルの整備 ・エレベータの導入
(心の居場所としての学校・学級づくり)
 - 人権教育及び生徒指導の取組の状況
- ③活力ある学校
(支え合う教師集団)
(研究活動の充実)
 - 研究活動拠点校としての取組の状況
・各教科における言語活動の充実(3年次)
・新学習指導要領への移行措置の確実な実施
・研究活動の発信
(特色ある学校づくり)
 - 伝統と新しい風
 - 校内研修の充実

I 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 楽しい学校

生徒一人一人が、だれが劣っているとか、だれが優れているとかいった優劣の意識から解放されて、学びひたることができるように。何より学ぶことそのものに喜びを、見いだせるよう創造的な教育課程の編成にあるいは指導方法の改善に、教職員の共通理解を図りつつ取り組んでいる。

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 確かな学力の向上：学ぶことのよろこびのある授業への取組ができているか。

(I) 本校では、24年度よりの新学習指導要領の全面実施にむけて、「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造」も3年次を迎え、副題を「言語活動の充実と観点別学習評価を生かした指導を通して」とし、6月3日（金）研究発表会を実施、県内外より500名近い参加者を得た。このことは、本校の研究に対する一定の評価と見て良いと考えるものではあるが、しかし尚、改善の余地も多々あるものと考えている。



【絵本を読み合う】

「生きる力」としての「思考力・判断力・表現力」が、生徒自身に確実に培われているのか、「言語活動」が一見活発になされていることと、学力としての定着は別物である。「言語活動」は、学習指導目標達成のためのプロセスであり、指導者は、まず、学習者の実態を把握し、そこから明確な学習目標を導き出し、適切な学習活動を仕組む必要がある。目標に対して設定した「言語活動」が適したものであったか、個々の学習者が「言語活動」を通してどのような力をつけたのか、といった学習指導過程そのものの評価が指導者には求められている。

と同時に、学習者自身も自らの「言語活動」を振り返ることで、「言語活動」そのものから得られる充実感・達成感を通して学ぶことの意義を実感できるようにし、次の学習への意欲につなげたい。

本年度は、文部科学省の教育課程研究校としての指定を、国語・数学・社会・理科・保健体育の5教科でうけている。これらの教科においては、6月の研究発表会以後も、教科調査官に研究授業を見ていただくなど、積極的に研究を進め、他教科にも発信している。

例を挙げれば、国語科一年においては、話し合う活動においては、まず、聞き合うことが大切であり、「絵本の読み合い」（写真）などの聞き合う活動、聞き合う関係づくりで、互いを

尊重し合う集団へと高めていこうとしている。また、学習の始めには、左の写真のように、板書や手引きによって、自己の課題を構造化し、学習の見通しを持つことを習慣づけている。学習時間の終わりには、その時間、自らがどのように言語活動に取り組んだかを振り返り、記録させるなどを通して、自主的に課題を把握し、自己学習力を育てる工夫を取り入れるなど、教科調査官よりお褒めの言葉もいただいている。



(Ⅱ) 理科では、基礎・基本の活用等をスムーズに進める活用カードやワークシートの活用など、本校が全教科で工夫したところの共通した取り組みに基づき、研究を進めてきた。文科省に報告した取組の概要は次のようである。

①言語活動の充実を通して科学的な思考力・表現力を育成するための手法として、言語活動の構造化を図った授業（右図）を年間指導計画に適切に位置付け、実践した。

②「自分の考えをもつ」段階でホワイトボード（思考ボード）を用いて可視化させることで考えをより確かなものにさせた。

③課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を教師の方で整理・集約した活用カードα，考え方や課題解決に至る過程等を示した活用カードβを使用した。

このような実践を通して、課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識・技能が適切に活用できるようになり、根拠を明確にして分析・解釈できるようになってきた。

【研究の目的， 研究内容】

(i) 研究主題

思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造

- 言語活動の充実と観点別学習状況評価を生かした指導を通して -

(ii) 研究主題設定の理由

理科の授業における生徒の現状として、①実験や観察は好きだが、そのデータを基に考えたり、話し合いをしたりすることが苦手で、十分に思考が深まらない生徒が見られる。②科学的な概念を当てはめて事象を説明することが苦手な生徒が見られる。そこで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と活用の場面を設定し、言語活動を充実させることで主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造」に迫ることとした。

(iii) 研究体制

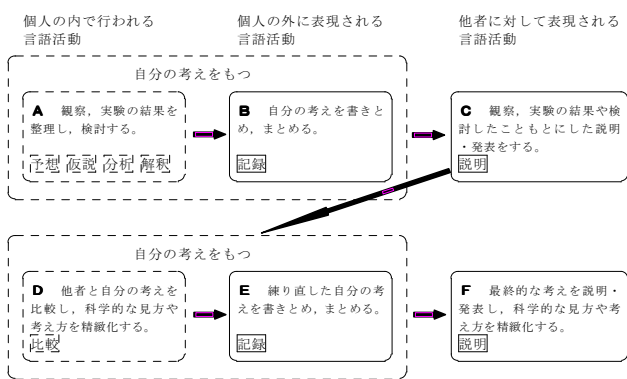


図1 言語活動の構造化

本校では、教科部会のメンバーが研究委員会を構成し、研究推進の中心となっている。また、教員全員参加の研究会を月に2回程度開催し、授業実践を通して研究を深めている。

(iv) 1年間の主な取組の経過

平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた年間指導計画（評価計画）を作成する。その際、単元の中に「言語活動の構造化」を図った授業を適切に位置付けた。 ・3年「力のはたらき - 慣性 - 」, 「中和」, 2年生「消化」の研究授業を中心に、授業実践を重ねた。 ・上記の実践を通して、生徒の思考の可視化を図る教具であるホワイトボード（思考ボード）、課題解決のために使う知識・技能を示す活用カードαや考え方を示す活用カードβの有効な使い方を探った。
--------	---

(v) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

「言語活動の構造化」をはかった授業を適切に位置付けた年間指導計画を作成し、それに基づいて授業実践を行ってきた。

① 生徒の思考の可視化を図るホワイトボード（思考ボード）

本校が用いているホワイトボードはA4サイズのスチール板をラミネート加工したものである。これをA4硬質カードケースに入れ、その間に自分の考えのをまとめられるように思考の流れを示す紙をはさみ使用する。頭の中にあることを外に表し可視化することで、自分自身で操作したり、見直したりできるようになり、考えがより明確になる。

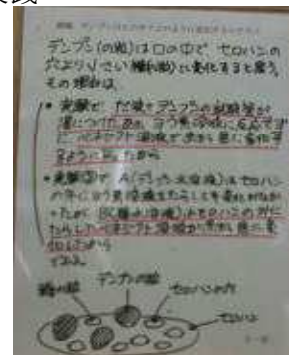
○ 3年「中和」での実践

スチール板の特徴を生かしマグネットイオンモデルを自由に操作し、考えることができた。



○ 2年「消化」での実践

ホワイトボードマーカーで、ケースの上から何度も書き直しながら、自分の考えを整理・深化させることができた。



② 課題解決のために使う知識・技能を示す活用カードαや考え方を示す活用カードβ

○ 活用カードα（3年「中和」での実践）

右のような内容をワークシート上に示し、必要に応じて課題を考えるときに確認させた。

α 課題を解決するために活用する知識・概念

- 「酸」は水溶液中で電離し、 H^+ （水素イオン）を生じる。
 $HCl \rightarrow H^+ + Cl^-$
 塩酸
 「アルカリ」は水溶液中で電離し、 OH^- （水酸化物イオン）を生じる。
 $NaOH \rightarrow Na^+ + OH^-$
 水酸化ナトリウム
- 中和とは、酸とアルカリが互いの性質を打ち消し合うことである。
 $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$
- 酸とアルカリを混ぜると、塩（えん）ができる。
 (例) $Na^+ + Cl^- \rightarrow NaCl$
 (水が蒸発すると)

○ 活用カードβ（2年「進化」での実践）

課題を解決するために必要な考え方の視点や根拠のもとを示し、このカードを参考に考えさせた。

根拠のもとになる視点例

共通点、相違点、生活経験、すでに学習した内容、事実と事実との関連付け、表やグラフ、時間の流れ、生活環境、仲間の意見

【研究成果とその意義等】

(i) 研究成果

年間指導計画に言語活動の構造化を図った授業（課題）を位置付けたことで、課題を解決するために必要な知識・技能、課題どうしのつながりがより明確になった。また、思考を可視化するホワイトボード（思考ボード）を用いると、生徒は何回も思考でき、自分の考えをしっかりとるようになった。さらに活用カードを用いることで、課題解決のために用いる根拠を明確にし、視点をはっきりもって考えることのできるようになってきている。

(ii) 研究成果の意義等

科学的な思考力・表現力を育むためには適切な課題の設定が必要である。年間指導計画を適切に作成することで、課題に系統性をもたせることができる。また、本校のホワイトボード（思考ボード）は自分の頭の中を可視化でき、考えをまとめるのに有効である。さらに活用カードを用いることでしっかりした知識や根拠をもとに考えることができるようになると考える。

(iii) 研究2年目へ向けての課題と改善

言語活動の構造化を図った授業の見直しを行い、年間指導計画をさらによいものにしていくこと。その際、実験計画や仮説を立てる授業の位置付けを工夫する。また、活用カードは課題解決のための道筋を示す上で有効だと考えているが、单元ごとに育てたい考え方を明確にし、生徒への提示の仕方を工夫することが必要だと考えている。

観点1-2 確かな学力の向上：一人一人のよさを見つめ自己実現が図られているか。

(I) 本校LFT（ライブ附中タイム）は別名「生き方を考える時間」となっており、本年度も国際理解、思春期の心の問題、からだのこと、科学的・論理的な思考、音楽など、本学の先生方より多彩なご講義をいただいた。毎回50分のご講義が大変短く感じるほど聞き浸りの時間となるとともに、生徒からたくさんの質問がよせられ、学ぶよるこびに満ちたものとなっている。なおかつ、一人一人が自分のよさを再認識し、自己実現へ向けての足がかりとなるよう、学習テーマを設定していただいている。

本年度は、特別LFTも含めて3名のOBのお話が聞けたことも、特筆すべきことである。

1年間の講座一覧を次に示す。

平成23年度 LFT タイム 実施状況 (資料1-2-①)

月 日(曜)	講師(敬称略)	担当講座	演 題
6/ 9 (木)	醍 京・ 剛 欽	本校 OB	世界にはばたけ！附属中生
7/ 14 (木)	栗飯原 良造	臨床心理	自分の思いの伝え方
9/ 8 (木)	阿形 恒秀	学校臨床	こころの不思議 ～もうひとりの「自分」との折り合い～

9/22 (木)	葛西 真紀子	臨床心理	セクシャルマイノリティ
10/6 (木)	藤田 雅文	保健体育	スリムになるスロートレーニング
10/27 (木)	石坂 宏樹	国際教育	私の海外生活 - 英語嫌いの逆転劇 -
11/17 (木)	田村 隆宏	幼年発達	赤ちゃんて無欲?
11/24 (木)	山田 啓明	音楽	大学院生によるミニコンサート
1/12 (木)	曾根 直人	技術情報	ネットやPCのセキュリティ
1/19 (木)	佐伯 昭彦	数学	数の不思議さを楽しもう!
2/2 (木)	眞野 美穂	英語	世界の言語から見た英語
2/16 (木)	今倉 康宏	理科	科学研究への旅～なぜ理科を学ぶのか～

※特別LF 3/8 OB 佐藤タイジ：ミュージシャン 「後輩へのメッセージ」

(II) 物理的にも質的にも個に応じる配慮といえ、小人数制の選択学習ということになるが、本年度より新教育課程に移行した本校においては、生徒に大変好評であった選択教科を、中断することなく新教育課程のどこに位置づけるかが課題となった。生徒の興味・関心・意欲をそぐことなく、大学の先生方ともチームティーチングで実施できるのは、2年生の11月の総合的学習の時間であった。以下にその取組の概要を述べる。

2年生 総合的学習における選択学習 (資料1-2-②)

(i) 趣旨

大学との連携を生かした課題探究学習を2年生の後期の11月～12月に12時間程度設定する。

- ・講座数：2年担当6人，講師，他学年の授業数の少ない先生＝8講座以上
- ・必ず大学教員からの授業を位置づける。

(ii) 日程

- 学習内容の決定，大学担当者との打ち合わせ
- クラス編成
- 実施可能な日

- ① 11月 8日 ② 11月 15日 ③ 11月 22日
- ④ 11月 29日 ⑤ 12月 6日 ⑥ 12月 13日

(iii) 学習内容

教科	単元名	具体的な学習内容
国	音読から読み聞かせまで	音読のスキルアップを目ざし、基礎力育成の過程を中心にした授業展開です。
数	数学を楽しもう	①対称性を生かした図形分割パズル ②石取りゲーム推理 ③数の不思議 ④工夫して作図しよう ⑤グラフのように歩いてみよう ⑥未定
理	植物の葉からメントールを抽出する	ニッキの葉から、いろいろな手法を用いてガムの成分であるメントールなどを取り出します。
英	「Let's make American friends」	アメリカの中学生と交流して、友達を作ろう。英語を使うチャレンジコースです。
音	三味線やりまSHOW	三味線の演奏を通して、日本の伝統音楽のよさについて考えます。まずは阿波踊りの「ぞめき」に挑戦です。
美	生活の中にアートを生かそう	生活の中で使用する食器を中心に、陶芸制作を行います。オリジナルのデザインが、生活をより美しく、豊かに！ ー工芸デザイン分野ー
体	剣道の技を学び 試合を楽しもう	基本的な技能をより高め、試合に必要な技を身に付けながら試合に取り組んでいきます。
技	最先端の技術を体感しよう	世界初!!木材の藍染めをします。また、エネルギー変換の技術と情報技術を駆使して、電磁波を利用する技術について学びます。
家	食生活と栄養 ～無機質のはたらきを 知ろう!～	人体を構成している成分の約4%が無機質です。微量ですが、生理機能の調節に重要な役割を果たしています。鉄やカルシウムなどを摂取することの大切さを実験や調理実習を通して学びます。

(2) 優れた点及び改善を要する点

本校では、本年12月、3年生（158名：8名欠席）を対象に「平成23年度全国学力・学習状況調査」の「学習状況調査」のみを実施した。それにおいて、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」という設問に対し、本校3年生の89%が、「当てはまる（72%）・どちらかといえば当てはまる（17%）」と答えている。「ものごと」の内容がすべて学校生活に関するものではないと思われるが、9割近い生徒が、何らかの達成感を抱いて生活していることは事実である。

また、「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」かに対して、83%の生徒が「当てはまる（39%）・どちらかといえば当てはまる（44%）」と答えている。他にも「授業では、ノートを丁寧に書いている」80%など、学習や部活動に前向きに取り組み、そのことで達成感を得ている附中生の姿が浮かびあがってくる。

しかしながら、学校図書館の利用率が低く、言語活動においても調べ学習等の満足感が低いことがわかる（44%程度）。本校の学校図書館の運営には、司書教諭の資格を有した、教員があたってはいるが、学級担任をこなしつつ、図書館運営にあたるのには、非常に厳しい側面があり、来年度へ向けての課題である。「読書はすきだ」73%という生徒をさらに増やしていくためにも、「学校の顔」とも言うべき学校図書館を、ぜひとも充実させたい。

学校を挙げての取り組みを重要視しつつも、生徒一人一人にとって学ぶことのよろこびに満ちた「楽しい学校」となるよう、努力を続けたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「A 十分達成されている」と判断する。

- | | |
|---------|----------------------|
| 自己評価の基準 | A 十分達成されている |
| | B 達成されている |
| | C 取り組まれているが、成果が十分でない |
| | D 取り組みが不十分である |

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目2 美しい学校

自他の生命を大切にしつつ、のびのびと学ぶことのできる安全・安心な学校環境づくりに努める。また、心の居場所としての学級・学校づくりに、生徒教職員が一丸となって取り組む。

心豊かで創造性に満ち、心身共にすこやかな生徒を育成していくためには、学ぶよろこびのある授業の創造とともに、特色ある学校文化の土壌に立ち、四季折々にメリハリのある学校生活が重要であり、特別支援教育や人権教育の視点に立って、学校・学級への帰属意識や自尊感情を高める新しい教育課程の創造に努める。

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 命を大切に：安全安心な学校環境づくりへの取組ができているか。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの命が失われた。本校においてもこの機会にもう一度、地震・津波等の大災害に備えて、マニュアルを整備し、いかなる場合も生徒が安全な場所へ避難できるよう自ら考え、備えることができるよう、次のような取り組みを行った。

(I) 非常災害時における対応の見直し

(資料 2-1-①)

このプリントは見えるところに貼っておきましょう！

非常災害時における 鳴門教育大学附属中学校の対応について

非常災害時の鳴門教育大学附属中学校の対応は、下記のようになります。同報無線や広報車の放送を聞

き、避難や自宅待機等の対応をお願いします。お住まいの地域や各家庭により非常災害時の対応は異なりますが、安全を第一に家族で話し合っておきましょう。ご協力をよろしく願いたします。

■登校前・下校後（自宅にいるとき）に災害が発生した場合

◆【津波警報・大津波警報発令】

学校に登校せず、自宅に待機及び避難してください。

★自宅に大人がいない場合のお子さんの動きについて十分話し合ってください。

◆【震度5・6の地震が発生した場合】

学校に登校せず、自宅に待機及び避難してください。

(火気・電気・避難通路の確保
・津波地震の各避難場所)

■登校・下校中に災害が発生した場合

◆【津波警報・大津波警報発令】

登・下校経路の津波避難ビルや高台に避難してください。
海や川には近寄らないようにしてください。

★登下校中に津波警報が出たり、大きな揺れを感じたとき、あるいは交通機関がストップした場合は、あらかじめ家族と話し合っておいた場所（緊急 時連絡カード）に避難しましょう。

◆【震度5・6の地震が発生した場合】

余震に気をつけ、安全な場所に避難してください。
海や川には近寄らないようにしてください。

■学校にいるときに災害が発生した場合

- ★在校中に地震や津波が発生した場合は、教職員の誘導で避難します。
- ★災害の状況によっては各保護者のお迎えをお願いいたします。
ご家庭と連絡のつかない場合は、学校でそのまま待機させます。
- ★【電話が不通になった場合】生徒の安全を確認したい場合は、
災害用伝言ダイヤル171及び四国放送ラジオの災害情報を確認してください。

鳴門教育大学附属中学校

〒770-0804

徳島市中吉野町1丁目31番地 TEL 088-622-3852 FAX 088-652-0122

URL <http://www.secsch.naruto-u.ac.jp/>

(Ⅱ) 災害発生時における教職員の業務内容の見直し

□災害発生 その時どう動くか (資料2-1-②)

生徒の避難誘導・自身も含めた安全確保ののち学校対策本部の設置

□業務内容の分担

	業務内容(班)	担当者
1	総括(本部)	谷木・大泉
2	救急医療班	谷中・板東・末包
3	安否確認・避難誘導班	立岩・仁木・学級(授業)担任
4	応急復旧班	林・槌谷・橋川
5	安全点検・消火班	片山・吉成
6	救護班	福田・武田 初期対応後(1・3組担任)
7	避難所支援・搬出班	藤井・武市・細川
8	保護者連絡班	初期(学級担任) 初期対応後(2・4組担任)

大地震の発生時のみならず、津波警報発令時、あるいは台風や豪雨などによる被害が予想されたり、警報が出された場合、生徒が帰宅困難になったり、学校が避難所となったりすることが予想される。これまでの災害時の業務分担は、火災発生時などの避難用として設定されていたので、大幅な改訂を実施した。

(Ⅲ) 大災害発生時の緊急連絡カードの作成

災害発生時に生徒が一人でもどこに避難すればいいのか、安否の確認はどこを探すのかを家族とともに確認した。

(資料 2 - 1 - ③)

◇緊急時連絡カード（自宅用）◇

生徒氏名		学年・組	年 組 番
住 所			
通学方法 (具体的に)			
避難場所	1 家の近く	①	
	2 家と学校の間地点	②	
		③	
	3 学校の近く	④	
地域指定の 避難所			

※ 1 地震や津波、台風などの災害時を想定して、緊急避難の場所を家族とよく話し合っておきましょう。

※ 2 通学方法は「〇〇～△△まで バス △△～□□まで徒歩」というようにできるだけ具体的に書きましょう。

※ 3 いろいろな場合を想定して、津波時は高台、台風時は土砂崩れのない安全な場所というふうに複数決めておきましょう。

※ 4 夜間の災害時は地域指定の避難所がどこなのかも確認しておきましょう。

※ 5 学校へも 1 部提出してください。

観点2-2 心の居場所としての学校・学級づくり：人権教育及び生徒指導への取組ができているか。

この1年、学校行事を核として学校・学年・学級への帰属感をもたせることはもとより、いじめ・不登校といった生徒指導上の課題を積極的に予防・解決していくことで、心の居場所としての学級・学校づくりに取り組んだ。

(I) いじめ問題解消への取り組み

成果としては、定期的な生活アンケート等を通して、いじめの解消につながるという具体的な成果が得られたことである。もちろん、完全解決に向けて継続的な見守りを必要とはしているが、具体的な訴えの声を挙げられる風土ができつつあること、教職員の間にも「いじめは決して許されるものではない」という毅然とした態度とチームワークによる取り組みができつつあることを評価したい。

(II) 不登校ゼロへの取り組み

不登校の生徒の人数は昨年とほぼ変わらないが、少しずつ改善の兆しが見られる者もあり、全国平均（中学生の34人に1人が不登校）と比較すると、本校の場合はその半分にとどまっていると言える。定期的な家庭訪問や本人・保護者との対話を今後も大切にしていきたい。

本学の山崎勝之先生・内田香奈子先生をはじめとして、予防教育センターの先生方にご指導いただく「予防教育」も、昨年よりさらに4時間の時間増となり、16時間のプログラムで、1年生の「総合的な学習の時間」に実施した。本年度は「いのちと友情」をテーマに「感情の特定・理解・対応」や「向社会行動」ができる生徒にをねらいとして、毎時間、工夫ある楽しい学習が展開された。

また、学級や学年、校長室での「絵本の読み聞かせ」（生徒と教師・生徒間の信頼感の形成）も継続したいと考える。

(III) 人にやさしい環境づくり



【着々と進むエレベータ設置工事】

本校は平成7年より全国に先駆けて総合的な学習の研究開発に取り組み、社会福祉分野で「人にやさしい環境づくり」をテーマにバリアフリーの現状などについて調べ学習を行ってきた。

しかしながら、本校の施設設備は玄関前スロープと車いす用トイレの設置にとどまっており、階段の手すりも部分的にない状態であった。今回大学当局の配慮によりエレベーター設置の工事が進んでおり、生徒が「人にやさしい環境」を考える上で良い実体験の場となることは間違いない。

また、県下の中学校に二つしかない天体ドームは、昨年度末に改修工事を終え、天体望遠鏡の微調整も完了して、いよいよ地域に開かれた学校施設となる日も近づいている。

これらの環境整備は生徒の本校への帰属意識や自尊感情を高めるのに有効であり、これまでの課題であった「地域のモデル校」「地域に愛される附属中学校」として躍進できる大きな足がかり、飛躍への第一歩となったといえる。その試み第1弾の観測会は、24年度5月に予定している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

学校は嘗ては文化の発信地であり、家庭や地域では見ることのできないものや体験できないことが存在する魅力的な場所だった。11年前に一度附中を後にした者にとっても、再び帰ってきたときの印象は、まるで変わらない、いや少し古びて後退した感のある学校であった。本校の場合、学習成績にとらわれず、自分のよさを十分に発揮し「自分にはよいところがある」（現3年生66%：平成23年度学力学習状況調査）と思える学校となることが何より肝要である。施設面でのリニューアルが完成し、すべての人にやさしく開かれた中学校となることは、どんなテキストにも勝る教材となるに違いない。

幸い「友達に会うのはたのしい」と考える生徒が90%いること、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」生徒が85%いることは、心の居場所としての学校づくりや人権を重んじる心が育ちつつある結果だと考える。しかし、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」には当てはまらないと考える生徒が11%いることは、重い課題として受け止めなければいけない。「いじめは決して許されない、人として卑怯な行為」をあることを徹底することに、これからも全力を注ぐ決意である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「B 達成されている」と判定する。

評価項目3 活力ある学校

活力ある学校は、いきいきと職務に取り組む教師集団によってつくられる。教職員一人一人が、職務を通して自己実現が図れるよう、また、目標を共有し、チームとして達成感を得ることとさらなる活力を生み出していきたい。

本校の使命として「国の研究拠点校」「地域のモデル校」さらには「教育実習校」としての実践ならびに発信が求められている。こうした面でも、附属学校としての活性化を目指した。

(1) 観点ごとの分析

観点3-1 支え合う教師集団：学校目標共有への取組ができているか。

徳島県公立中学校と歩調を合わせ、県教育委員会の「新しい教員評価」にもとづく「自己評価票」によって、学校重点目標の共有化を図り、それぞれが教科・学級・分掌校務・研修の自己目標の実現に向けて、実践を通じた自己評価を実施している。

校長とは、目標設定面談、目標修正の面談を通じて話し合う機会を持ち自己の課題解決について積極的に取り組むとともに、教師間でも研究授業や実習生への模範授業を通して、互いに授業力や指導力を高め合う機会も設けている。

また、この一年間で学校重点目標の実現に向けて、積極的に動き他の教職員を引っ張っていきける突出した存在が育ちつつある。24年度は、さらにこうした意欲的人材が増え、教師集団の要となっていくことを最終報告から見取った。

観点3-2 研究活動の充実：研究活動の拠点校としての取組ができているか。

平成23年度より、本校ホームページをリニューアルし、学校の教育活動全般と本校の教育課程及びその研究について、発信している。その結果、県外の中学校よりの参観者が増えてきている。研究拠点校としての発信をホームページの更新でリアルタイムで続けていきたい。

ホームページのリニューアル（資料3-2-①）

本校のホームページをリニューアルしました。修学旅行や宿泊活動では、毎日現地での活動の様子をアップしました。また、保護者会活動の連絡等もその都度更新し、生徒や保護者が多数閲覧してくれているようです。本校の研究につきましても、その内容を見て、参観希望が各地からメールで届き、例年以上に県外からの視察があったのもホームページを利用した研究内容の発信の成果だと思います。

その他、本校入試の願書の配布が始まる前後は、飛躍的に閲覧数が伸びました。それもどこからこのページへやってきたか履歴を調べると、小学生向け検索エンジン（ヤフーキッズ）から圧倒的に多く、本校への入学を希望する児童が、本校のホームページから学校の様子を知ろうとしていたことがわかりました。それ故に、「各教科の紹介」や「生徒の活動」は、小学生でもわかりやすい、また興味をひく内容もふんだんに取り入れられるよう検討していかなくてはならないと思っています。

学校ホームページの最大の欠点は、その内容の充実や更新の頻度にムラがあるということで

す。担当教員が熱心に取り組んでいる間は、更新の頻度が高いため、内容も新鮮でおのずと閲覧数も上昇します。しかしながら、その教員が異動などにより交代すると、途端に更新回数が増える場合が多く、ページの魅力もなくなり利用されなくなってしまいます。この原因は更新手順の煩雑さにあり、簡単にワープロ感覚ではできないので、全てを一人にたよってしまうため、担当者によって差が出てしまうのです。本校はこの点を今回のリニューアルの際にもっとも重要視し、自分の担当教科や部活動など、関係ページを誰でも簡単に責任を持って更新できるシステムを取り入れました。その結果、好評の「校長室から」も学校長自身が毎回更新していますし、修学旅行中など、校外からも簡単にページの更新ができるようになりました。また、最近ではホームページの改ざんなども社会問題になっていますが、今回のリニューアルに際し、セキュリティ面の重要性も考慮して外部委託し、サーバーもその会社で徹底管理してもらえるようにしました。そのため、校務で多忙な最中についてチェックが滞ったため、本校のホームページが異常をきたすというようなことはないと思います。また、毎月アクセス数のレポートや、どこから本校のページにアクセスしているかなどのレポートも届けられるため安心です。



なお、この会社で本校のホームページに関わってくれているのは本校の卒業生（2名）でもあり、大変親身に相談にのっていただいております。（文責 大泉 計）

観点3-3 特色ある学校づくり：伝統の行事と新しい風を意識した取組ができているか。



附属中学校の新年は、揮毫式とともにやってくる。今年で62回目を迎える本校の伝統の行事である。

揮毫式を行う体育館の空気は、冷たくぴんとはりつめて、心地よい。日本人が、なぜ書き初めを大切にしてきたかもわかり、思わず背筋が伸びる。先輩たちの揮毫（名前を記すこと）に

よる61本の雄名録（掛け軸）に見守られて、この学校に学ぶことの意義を考えてみる機会となった。

「良い先輩がいることは、ほんとうに大切なこと。何より誇りが持てる。」という言葉聞いたことがある。

今年、私が記した言葉は次のようである。

去稚氣(ちきをされ)

「今日よりぞ 幼心をうち捨てて 人となりにし 道を踏めかし」

これは、吉田松陰が松下村塾の塾生に与えた言葉であるが、時代を動かした幕末のリーダー、高杉晋作や伊藤博文たちは、こうした教えから生まれた。「去稚氣」もまた、同じ意味を持つ言葉である。

高度情報化社会を生きるわれわれは、あらゆることをよく見聞きし自分の考えを持つこと、また他の人と考えを分かち合うことで、考えをさらに深いものにしていくことが求められている。

「今日からは、子供っぽさと訣別し、自らを育てながら生きていく人に」これが、新しい年を迎えるのにあたって、心にとめてほしい言葉である。

東日本大震災から一年、福島原発の事故もふまえて、日本いや世界は、エネルギー問題に関しても進むべき方向を模索しています。「脱原発・脱炭素」の議論がなされたり、石油代替燃料の開発において日本は、世界をリードできる技術を持っているんだという声も聞こえてきたりしている。

どうなるのか先の見えない時代だからこそ、私たちは自分の考えを持ち、また、話し合うことを大切にしなければならない。

思えば、附属中学校が創立された昭和22年もまた、太平洋戦争で焼け野原になった混迷の時代のまっただ中であつた。

そんな中であつて、初代校長の河原貞夫先生は、「生産的思考」と題された「そだち29年7月号」巻頭言の中で、附中生にこう呼びかけている。

「本号はこの生徒諸君の素晴らしい生産的思考（修学旅行研究）の成果の一端を収録するという事です。私はその^{くわだ}企^たてを多（満足すべきこと）とし、よろこびに堪えません。日本の運命を切り開き、人類の福祉をもたらすものは若き人々のこのような知性であると信ずるからです。原爆、水爆、死の灰の時代です。真に頼るべきは諸君の創造的、生産的な知性と深いヒューマニズムの情熱であると思います。人間愛の信念をもってよりよきものを創造し生産するところに人類の栄光は開かれるのではないのでしょうか。」

「頼るべきは諸君の創造的、生産的な知性と深いヒューマニズムの情熱」と取り出してみると、これはすなわち、

附属中学校は
創造的知性を磨く学問学校である

情熱的意志を鍛える鍛錬学校である
強健な身体を練る体育学校である
敬和奉仕の精神に生きる人間学校である

の校風に他なりません。なお且つ、総合的学習の時間において本校が培ってきた社会福祉の精神や、今取り組んでいる「思考力・判断力・表現力の育成」と目指すところを一つにしている。

先にも述べたように、本年度のLF（ライブ附中タイム）は三人の先輩のお話を聞く機会に恵まれました。世界各地の人と物の値打ちを再発見し、それらを結びつけるために奔走されている西本京子さん、ふるさと四国の活性化に取り組む岡田育弘さん、そして、被災地東北にいち早く駆けつけ、今年秋には百パーセント・ソーラー・ライブを企画しておられるギタリストの佐藤タイジさんである。

三人の生き方は、建学の「人間愛の信念をもってよりよきものを創造し生産する」人間学校の精神そのものだといってよい。伝統に新しい風を、これこそ本校の目指すべき方向だと考える。

新しい風－校長室ランチ（資料3－3－①）

わたしの授業～校長室ランチ・絵本の読み聞かせ

☆今年で、教職31年目になりますが、退職するその日まで、わたしはわたしの授業力に磨きをかけたいと思っています。ですから、今は行事や集会での講話、校長室ランチで生徒の皆さんと楽しく対話すること、そしてその後の絵本の読み聞かせが“わたしの授業”だと考えています。

☆絵本の読み聞かせで、生徒の皆さんに伝えたいことはたくさんありますが、その中に『星の王子さま』の一節があります。それは

じゃあ秘密を言うよ。簡単なことなんだ。——ものは心で見える。肝心なことは目では見えない。

（サンテグジュペリ作 池澤夏樹 訳）

文部科学省の『学習指導要領』にも、すべてのことは書き切れていない。先の『星の王子さま』の一節は、そういうことだと思います。

☆絵本を毎日毎日読んで聞かせると、学力が向上するというのは、ほんとうのことです。絵本の読み聞かせは、左脳で言葉を処理しながら、右脳で豊かなイメージを想起できる脳を、つまり活字や数値といった抽象的な情報から、具体的に豊かなイメージを想起できる脳のネットワークを形成するからです。

☆この二年間、生徒の皆さんといっしょにお弁当を食べ、絵本を読んで、ほんとうに楽しかったです。ことに、「校長室で絵本を読んでもらってから、家でも、小さい頃の絵本をもう一度出してよく読んでいます。」と言ってくれたこと、私が読んだ物語に涙を流してくれたことなど、校長室で読み聞かせを聞いてくれた一人一人から、心に残るうれしい反応を得ることができました。

☆絵本は、小さい子のものだと思われがちですが、決してそうではありません。何歳でも、だれが読んでもいい本です。そして、自分で読むというよりは、読み聞かせてもらうための本です。

☆生徒の皆さん、大人になってもだれかのために絵本を読む人であってほしいと思います。わたしも読み続けます。絵本にのせて、何かを伝えるために。

(文責 谷木 由利)

観点3-4 特色ある学校づくり：校内研修の充実への取組ができているか。

本年度より、従来の校内研修に加えて、特別支援教育に関する研修を導入した。特別支援教育は、特別な支援を必要とする生徒のためのみにあるのではなく、一人一人のニーズに応え、自己実現を図るためのユニバーサル教育であると考えからだ。

本学 津田芳見教授を講師に迎え、研修会・事例研究会を2回にわたって行った。生活や学習に困り感を持つ生徒の対応や生徒の個人差への対応など、具体的な示唆をいただいた。

また、附属特別支援学校の公開研や講演会にでかけるなど、交流・連携を活発にしていきたいと考えている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

この1年、チーム附中として教育目標を共有し、どんな時も助けあって問題の解決にあたることができた。しかし、生き活きた取り組みを続けるためには、教職員のワークライフバランスを調整することが重要な課題であると考えている。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階中の「B 達成されている」と判定する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資 料 名
1	1-2	1-2-①	○		LFタイム実施状況
2	1-2	1-2-②	○		総合的学習における選択学習
3	2-1	2-1-①	○		非常災害時における附属中学校の対応
4	2-1	2-1-②	○		災害発生 その時どう動くか
5	2-1	2-1-③	○		緊急時連絡カード
6	3-2	3-2-①	○		ホームページのリニューアル
7	3-3	3-3-①	○		わたしの授業ー校長室ランチ・絵本の読み聞かせ